

[名作の誤訳]

オスカー・ワイルドの代表作の一つに短編『わがままな大男』（The Selfish Giant）があります。美しい庭の持ち主である巨人とキリストを象徴する男の子の愛と許しの童話です。文章もむずかしくないのですが、名だたる訳者が一様に間違ってくる場合があります。まず新潮文庫版を読んでみましょう（下線は私が施した）。

— ある日、大男が帰ってきました。友達のコーンウォールの人食い鬼を訪ねにいて、七年間もいっしょにいたのです。七年たつと、大男は話すべきことはみんな話してしまいました、話題にも限りがあったからです。—

次にアルク社版。

— ある日、大男が帰ってきました。友達のコーンウォールの人食い鬼の元を訪ねにいて、7年間一緒にいたのです。7年たつと、大男は話すべきことはみんな話し終えてしまいました、というのも、大男にはあまり話題がなかったからです。—

原文は One day the Giant came back. He had been to visit his friend the Cornish ogre, and had stayed with him for seven years. After the seven years were over he has said all that he had to say, for his conversation was limited, and he determined to return to his own castle.

さて、After the seven years were over he has said all that he had to say, for his conversation was limited, ... 「七年たつと、大男は話すべきことはみんな話してしまいました、話題にも限りがあったからです」はどこがまずいのでしょうか。

「話題にも限りがある」では、「人と人の間で話す事柄には限りがある」と読めてしまいます。his conversation となっているところに注目。ここの conversation は「社交的な話術」=ability to talk socially with others の意味です。また limited は他動詞 limit 「限界を設ける」の受身形ではなく、「想像力に乏しい」「思考の独創性に欠ける」の意味の過去分詞形の形容詞。His conversation was limited.= He was limited in conversation. つまり、大男は口下手、といているのです。「話すべきことはみんな話し終えてしまいました」も誤訳ではないが、力点がずれてしまっています。

このあたり訂正訳をつけるとすれば「七年かかってやっと、大男は話すべきことを全部言い終えました。なにしろしゃべるのが苦手だったのです」とでもなるでしょう。